

水を買って米を作る

文：廣瀬 渉

(前号よりつづき)

このあと、この堰について調べてみたところ、先人の記録が残されていました。上野尻村から白坂村にあてた文書で、約190年前の天保9年(1838)5月のものになります。それを現代語に要約してみると、「上野尻村は畑が多く、田んぼが不足しているのでこの度小蟹沢という場所に新しい堤を造り、その水を田畑に使うことになりました。しかし水量が少ないので、白坂村領内の大ひらきという沢と上野尻の越戸とを水路で掘り抜き、毎年10月から春の八十八夜の頃まで大ひらきの雪解け水を引くことを白坂村肝煎の佐藤様に相談したところでした。そちらの村の方々にお話ししていただいたところ支障がないと早速ご承知くださったので、その場所を掘り抜きました。あわせて、白坂村の田んぼの水に支障が出ることが少なからずもあるかもしれないので、後年のために書面を交わしておきます」

当時は飯米に事欠く家が多く、生産増にどこの集落も取り組んでいました。上野尻は山本地区の畑を田んぼにするために白坂にお願いし、使用料を払って水をいただいていたのです。残存の上野尻区総会記録をたどり、確認できたことは次のとおりです。昭和40年度会計予算で白坂へ水源使用料年200円、昭和48年度には400円、昭和52年度は2,000円でした。白坂の旧区役員の人の話では平成8年は使用料3,000円をいただいたとの記録が残っていたそうです。

越戸堰の維持のためにさまざまな作業も行ってきました。昭和54年(1979)に区の役員約30人が堰上げをし、崩壊土砂の排除、4ヶ所の塩ビ管の運搬敷設、トンネル内の土砂搬出を行ったとあります。また平成3年(1991)には小蟹沢堤上流の作業道の山腹法面が3ヶ所崩壊したので土止めを施工、平成8年(1996)には小蟹沢山崩落災害地復旧対策に取り組んだと記録されています。そのような状況の中で平成9年度以降であると思われますが、上野尻区総会において、約160年使用された、越戸堰廃止が決定されました。今は所々に堰跡が残るのみですが、現在も小蟹沢の堤は限られた水量の中で使用されています。先人の水確保のための思い、苦勞が偲ばれます。

(参考：石本家古文書)



第39回西会津ふるさとまつりでそばをふるまった皆さん

(6ページから関連記事)

今月は、「豊かなむらづくり顕彰 むらづくり部門」の受賞報告会から。今回の受賞を心から喜び、嬉しそうに微笑む菅本そば会会長の斎藤さんと安藤さんの姿が印象的でした。

今月の表紙

2月号9ページの12月町議会定例会報告 可決された議案の◆教育委員会教育長の任命への同意(五十嵐正彦さん(会津若松市)は(西林東)の誤りでした。お詫びして訂正します。

お詫びと訂正